

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	井出 晴美（16）	<p>1. コロナ禍におけるがん検診の推進について</p> <p>日本のがん検診の受診率は低く、例えば乳がんや子宮頸がん検診では、欧米の受診率が70%から80%に上るのに対し、日本は50%にも満たない状況です。</p> <p>2020年は、新型コロナウイルス感染症の影響で、がん検診の受診者が大幅に減り、早期がんの発見数が減るとともに、進行がんとなって発見される割合が増えるおそれがあると懸念されています。</p> <p>（公財）日本対がん協会が全国の支部に行ったアンケートによると、今年度のがん検診受診者は例年に比べ3割以上減少すると見込んでおり、毎年、協会が実施するがん検診では、約1万3000人のがんが発見されていることから、受診者が3割減れば約4000人のがんの発見が遅れると推計されています。</p> <p>がんは、国民の2人に1人が罹患すると言われ、早期発見・早期治療により治りやすく、発見が遅れるほど治療が困難とされています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症は防いだとしても、がんが進行し、救える命も救えなければ将来に禍根を残すこととなります。新型コロナウイルス感染症予防と並行して、がん検診の実施強化、推進は重要と考えます。</p> <p>そこで、伺いたいします。</p> <p>(1) 本市におけるがん検診の現状について伺います。</p> <p>(2) コロナ禍にあっても感染対策を万全に行い、がん検診の強化推進を行うべきと考えますが、本市の取組について伺います。</p> <p>2. 独居高齢者宅でのロボットによる見守り支援について</p> <p>新型コロナウイルス感染症の拡大により、高齢者を地域住民あるいは離れて暮らす家族が訪問して見守る機会が減少する中、外出自粛などに伴う高齢者の孤立や、心身機能の低下による介護リスクの増大が懸念されています。</p> <p>近年、高齢者の見守りや介護の現場で、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぎつつ、現場の人手不足も補う試みとしてロボットの活用が進みつつあります。</p> <p>また、独居高齢者を孤立させない環境づくりとして、幾つかの自治体で見守りロボットの実証実験が実施され、安全・安心な見守りロボットの導入が進んでいます。</p> <p>静岡県では、藤枝市が昨年10月から見守りロボット「パペロ」のサービスを開始し、独居高齢者宅にロボットを貸与、設置することで、家族による高齢者の見守りと楽しい生活へのサポートを行っています。</p> <p>これは、顔検知や音声認識の機能を搭載するコミュニケーション型ロボットの「PaPeRo i（パペロアイ）」を使用し、定期的に写真を撮影し、家族に送信したり、体操の動画などを配信し、高齢者の心身ともに健康的な生活をサポートしたり</p>	市長 及び 担当部長

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
9	井出 晴美（16）	<p>するほか、遠隔操作により部屋の様子を撮影し、生活の様子を記録するものです。</p> <p>さらに藤枝市は、高齢者と離れて暮らす家族に代わって警備会社が緊急時に対応できるよう、緊急通報サービスに取り組み、高齢者が緊急通報ボタンを押した場合や、見守りのための写真撮影で高齢者が3回連続でロボットの前に来なかった場合は、警備会社や家族、自治体に緊急通報メールが送信される仕組みとなっています。</p> <p>警備会社が緊急通報メールを受信すると、直ちに高齢者へ電話をかけて必要な措置を取り、電話に応答がない場合は、高齢者宅を至急訪問して安否を確認するとのことです。</p> <p>コロナ禍でも独居高齢者宅に見守りロボットがあれば、家族も無事が確認でき安心できるツールとして、とても有効と考えます。</p> <p>そこでお伺いいたします。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大により、独居高齢者の孤立や心身機能の低下が懸念される中、本市においても、家族が安心する見守りや利用者の孤独感解消に役立つ見守りロボットの導入を検討してはとありますが、本市の見解を伺います。</p>	市長 及び 担当部長